

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600776		
法人名	特定非営利活動法人 養老会		
事業所名	グループホーム「養老の泉」		
所在地	豊後大野市大野町大原1186番地1		
自己評価作成日	平成23年12月7日	評価結果市町村受理日	平成24年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4472600776&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構		
所在地	大分市羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F		
訪問調査日	平成24年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんが安心して楽しく暮らせるように、職員は優しい言葉と笑顔で接するように心がけている。 ・利用者本位のケアを実施し、個人個人の思いを大切にしている。 ・利用者のお話を良く聴き、信頼関係を築いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>山間の自然豊かな環境に位置し、隣接してパートⅡも併設されています。『笑顔・貢献・健康』を基盤に職員間の周知徹底に努め、チームワークと利用者本意の支援に取り組んでいます。地域の方々の施設に対する理解を深める努力を継続的に図りながら、地域貢献に繋がる援助を模索する中で、前進的な地域間交流が行なわれています。生活暦を把握する意義を唱えており、親族とのコミュニケーションづくりに積極的に励む姿勢が伺えます。また、個々の利用者に寄り添う、傾聴のケアの実践は、玄関の開錠と拘束の無いサービスにも活かされています。管理者、職員が志す取り組みは、思いやりの援助としてやさしく実を結び、安全で安心な暮らしを支える施設の構築に根ざしています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在の職員で行動目標を作った。毎朝、唱和している。1人ひとりの職員の意識に根付いてきており、実践にもつながってきている。	理念は、家族や来訪者の目に触れる場所に掲示されています。新たに行動目標を定め、周知が図られる中で「利用者中心・チームワーク」をサービスの軸に、個々の利用者の尊厳に着眼する支援に全職員で取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は自治会の班長としての務めがあり、日常的に地域の一員として交流できている。地域の方も事業所に来る機会もあり、職員の意識も高まった。	地域密着型サービスの意義を理解しており、地域交流に前進的に取り組む姿勢が伺えます。地域の催しや施設行事を通して利用者と地域の人々との繋がりのある生活を大切に支援しています。ボランティアも受け入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症介護の実践報告をさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員さんより、地域の方との交流の方法として「いきいきサロ」ンの事を教えていただいたが、今のところ実践には至っていない。夜間に消防団の人に来ていただき避難訓練をするという意見は実践できた。	推進委員(10人~15人)で構成されており、地域のボランティアの参加もあります。施設の状況・地域の現況や社会情勢等の話題を中心に、コミュニケーションを深めながら、地域に根付いた相互の関係づくりが行なわれています。	管理者は地域とのコミュニティの必要性を把握しており、会議進行に取り組んでいます。幅広い話題から、次回の議題を設定するなど、活発な会議に向けての活性化を目指す中で更なる効果を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市職員の方が来られた際に、会話を待つようにしている。	市の担当者を訪問しての相談や、質問はメールも活用しており、提案や助言を受けるなど、相互の協力的な関係作りに努めながら、継続的な連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんなことが身体拘束になるのか常に頭に置き、職員間で確認しながら取り組んで知る。	法人の《身体拘束等の排除の理念及び方針》が明記されており、職員は身体拘束の弊害を理解しています。日頃から職員間での認識と共有を深めながら、チームプレイに繋がっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての話しを会議等で持ち、些細なことでも自覚を促し、防止に努めている。(言葉の暴力、利用者への態度等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は学ぶ機会がなかった。 また、活用の事例もなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、具体的に話して説明している。 料金の事、損害賠償について、苦情処理の体制について等の件は特に丁寧に話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の意見(苦情)があった際、全職員で話し合い、今後の対応に反映させている。	年4回「交流行事」(総会・敬老会等)を主催し、家族との交流を深めています。「利用者を知る」姿勢を大切に捉えており、家族や兄弟の日常的な訪問を支持する中で、相互の関係作りに励む支援に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期で面接を行い、職員の意見を聞く機会をとっている。また、管理者等は、日頃から職員とのコミュニケーションを持ち意見を言いやすい雰囲気を作るように努力している。	日常の支援や会議での、職員の意見やアイデア・提案等を大切に、ハード・ソフト面の改善に取り組んでいます。質の向上の取り組みとして、管理者と職員とのコミュニケーションを大事に、話しやすい雰囲気作りに配慮する姿勢が伺えます。	職員の行動評価表を活かせるシステムの構築に、大いなる期待が持たれます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	下半期から、職員の行動評価制を取り入れ、職員各自が自己評価をする取り組みをしている。向上心を持って働ける事を期待している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個人別に、行動評価の目標を掲げており、達成状況を把握していくようにしている。事業所内での勉強会を中心に、機会があれば外部の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所、グループホームネットワークに加入しているが、今年度の参加はなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった時は、利用開始前までに本人に会い、話を持つようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前には御家族とゆっくりと話をしている。これまでの経緯やご家族の思いを伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスに結び付けるような場面はなかった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事(家事等)と一緒にしている。昔の習慣や言葉などを職員は教えていただき、よろこびを感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会や新年会など御家族とともに過ごす行事を開催している。また、面会時には、日頃の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人のいる施設に遊びに行ったり、自宅までドライブしている。	馴染みの関係の把握とその人々との触れ合いを大切に、サービスに反映しており、友人・知人・家族との継続的な交流や電話・年賀状の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の仲の善し悪しを配慮し、座る位置を考えている。元気のよい方が新聞を読めない方などに読んで聞かせてあげることもある。また、食事の際、声かけして勧めてもらったりもしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援には至らないが、関係性は絶えず、良い関係を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話を傾聴し、その方の思いや希望を把握するように努めている。しかし、実現出来ない事もあり、対応の難しさを感じている。	利用者・家族との話し合いや、また、本人からの把握が困難な場合は、日々の行動や表情から汲み取り、職員間で情報を共有しながら、利用者の視点に立って検討し、サービスの実践に反映しています。	一人ひとりの利用者の思いの実現に向け、対応の難しいケースについても、チームワークを發揮しながら取り組む姿勢が伺えます。「おもいやり」の心の支援に、更なる期待が持たれます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時、フェイスシートに過去の生活環境を聞きとった記録がある。利用後も、本人や御家族から話を伺い過去の生活状況を得る機会を持ち、本人の事をより深く把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの現状を職員間で共有しながらその人らしい生活を支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の変化により、新たなケアが必要な時は、サービス担当者会議を開き、検討している。 主治医や、御家族の意見も伺ったり、同意をもらっている。	3ヶ月毎に介護計画の見直しが行なわれている中で、利用者の状態に合わせて家族と連絡を取り合いながら、日頃の生活状況を踏まえつつ、会議を開くなど、全職員周知のもとで柔軟なケアプランの作成に取り組んでいます。	介護計画の目標の達成に全職員で取り組む中で、管理者は計画策定の資料となる書式の見直しにも着眼しています。書式の改正に向け、職員と共に取り組む姿勢と書式の改正に期待が持たれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録をしている。日々の様子や本人の言葉等を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に沿って、自宅に帰ってみたり、ドライブに出たりしている。また、定期往診以外にも、体調不良のある方には、診療所までの介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所に住むボランティアさんが時々来てくれ、折り紙や、本の読み聞かせ等を取り組んでくれている。良いふれあいとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が納得したかかりつけ医となっている。1人ひとりのかかりつけ医と連携をとりながら、体調の変化があった際には、速やかに話し合いを設け、関係者の思いのずれが無いように努めている。	2週間又は、1ヶ月に1回のかかりつけ医にて往診があり、緊急時、深夜帯においても連携がとれており対応されている。その他通院等には、家族と協力し行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、気軽に相談できている。夜間でも連絡が取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も見舞いに行っている。早期退院に向けての話し合いを、病院の相談員と御家族と勧めていっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期には、主治医を交えての話し合いを持つようにしている。入院すること、ここで過ごすことのそれぞれのメリットデメリットを説明し、御家族に十分考えてもらうようにしている。また、記録により、職員への伝達も行っている。	最初のアセスメント時より、事業所の方針を説明し、本人、家族の意向を聞き把握している。病状等段階的に医師を含め話し合いがもたれ、職員間でも共有し取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議やミーティングで急変時や事故への対応について訓練している。しかし、今のところ、一部の職員や看護師に頼っているところがあるので、職員1人ひとりが自信を持って対応出来るようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時等の職員連絡体制が整備されてきている。連絡網だけでなく、一斉メールを利用している。消防団の方の協力を得て、避難訓練を実施した。	消防署及び消防団の協力を経て、避難訓練が出来ており、夜間を想定しての訓練も行われています。職員の体制も整いつつ周知出来ています。	地域の方との関係も少しづつ築いていますが、一緒に訓練を行うような実践的な取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者のプライドを傷つけないように、言葉遣いに気をつけている。 理念の唱和により、職員に意識づけられている。	利用者の人権を守る事、やさしい声かけをする事を思い、利用者に寄り添うケアをされています。又、職員間での理念の意識づけができています。利用者中心にチームワークしていくという姿勢が見られます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	場面ごとに声かけをし発語を促し、できるだけ自分の気持ちを出してもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者の立場に立った支援を心がけている。 特にスケジュールはなく、個別的な支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝癖なおしや、目ヤニのケア、汚れやおいがある時は速やかに更衣を行うなどの身だしなみを支援している。毛染めの希望のある方に職員が染めてあげたりもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味噌汁作りや配膳を出来る方と一緒にやっている。職員も同じテーブルと一緒に頂いている。会話をもち、楽しい雰囲気作りを心掛けている。	自然食を中心に栄養面に心配りがみられ、一人ひとりの食事の形態も配慮しています。利用者の出来る準備や片付け等を一緒に行われており、和やかな雰囲気の中での食事を楽しまれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎回記録をとり、モニタリングしている。1人ひとりの摂食状態に合わせ、皆と同じ献立の物を、食形態を変えて、提供している。食べたい物がある時、希望に沿うように取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。残存菌のブラッシングや、うがいが出来なくなった方にはクルリーナブラシを使用し口腔内をケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄チェック表を使用してトイレへの声かけ、誘導を行っている。パットの中にするのではなく、トイレでの排泄を目指している。	一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに利用者からのサインを見逃さないよう努めています。又、プライバシーの配慮やさりげない声かけにて対応されています。トイレでの排泄、オムツにしないとの思いで取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を使用しないと排便が難しい方もいるがなるべく自然排便となるように水分をとる工夫をしたり、ご飯に寒天を混ぜて炊いてみたりと工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中に入浴している。1人ひとりゆっくりと入ってもらっている。また入りたくない方には、無理強いせず、安心した気持ちで入っただけのようにしている。	利用者の希望を確認し、又個々に添った入浴方法をしており、安全に入れるよう心がけています。脱衣所の温度調節、浴槽の設備等利用者本位のケアの様子が伺えます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れやすい人や、体調不良の方は、日中でも休んで頂いている。昼夜逆転に気をつけ夜間の睡眠状況の記録も行い観察している。なかなか寝付けない方には、付き添って会話を持ったり、トイレ誘導したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬、飲み忘れ、出し忘れの無いように、工夫して支援している。薬説明書を個人の記録に綴り、職員が把握できるようにしている。薬の変更時、看護師からの報告があり、把握できる。服薬時は、飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が好きだった方には、食事準備の際に声かけを行ったり、人形が好きだった方には、人形を持たせてあげたり、趣味の塗り絵や絵画等に取り組んでいただいたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の気分や希望に応じてドライブしたり、自宅まで帰ってみたりしている。車椅子の人は体力的に難しいため、庭を散歩する程度となっている。今後、御家族や地域の方型の協力を頂き、外出支援を実施していきたいと考えている。	利用者の体調等考慮しつつ、出来る範囲で外出が行えています。天気のいい日などは、ウッドデッキに出てお茶を飲まれたりと楽しまれており、又「家に帰りたい」という方の意向もくみ取り対応されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のおこずかいを施設で預かっているが、実際にお金を使うことの支援は出来ていない。所持している方もいるが、十分な管理は出来ていない。見つからない時の混乱もあるが、自分で持っている事の安心感がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話を希望した時はかけている。年賀状を出している。本人が字をかけない時は、職員が代筆したり、写真をつけたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温計を設置し、室温や湿度に配慮している。(加湿器の使用)馴染の曲をかけたり、季節の花を飾ったり、季節感のある飾りをつけをしたりしている。西日がまぶしい時は、職員は速やかにカーテンを閉め遮光している。	時季の花や飾りつけをされ広い空間の中で、日差しを浴び音楽を聴きながら、ゆったりとくつろがれている様子が伺えます。室内の温度管理に気を配られ心地よく過ごされるよう利用者本位の配慮がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳やソファ、テーブルを1人ひとりが好きな場所でくつろげつように配置している。トラブルが起こらないように、位置に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた椅子や、家族の写真、趣味の小物等を持ち込んで、目につくところに置くように配慮している。	慣れ親しんだものを置き、家族や思い出の写真などを飾られ、以前の生活に近いような工夫がされています。室内の風通しをし環境整備もされており、利用者の方も安心され居心地の良い居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物が広く、利用者の方が分かりにくい構造である。移動の際は、1人ひとりの状況に合わせて、誘導させていただいている。テーブルも低いものを取り入れ、自立した食事が取れるように工夫した。		